

佛 教 研 究

第 三 卷 第 三 號

大 正 十 一 年 七 月 十 三 日 發 行

目 次

口繪……………二葉……………	……………
三階教に關する隋唐の古碑(上)……………	神田喜一郎
親鸞聖人と常陸とに就ての考察……………	鷺尾教導
俱舍論に於ける世親の諸法觀……………	舟橋水哉
摩訶止觀の主要問題……………	宮城文成
西藏文大佛頂首楞嚴經に就て……………	寺本婉雅
御文御草本のこと……………	日下無倫
無着菩薩傳稿……………	多屋弘
因果隨順と因果超越……………	安藤州一
新刊紹介……………	……………
最近佛敎研究關係雜誌論文一覽……………	……………

救濟教と自證教の體高的級批判

曾我量深論集第一卷 (金子大榮編纂)

救濟と自證

菊版洋裝全一冊
正價 金四圓
送料 金拾八錢

救濟教と自證教とは長く我が佛教に於ける二大系として對立するものご解せられて來た。併し眞實の救濟の信仰には、自證の根元が無くてはならぬ。この事を體驗せるものは、即ち親鸞聖人である——。これ著者が年來の持論であつて、本書は正しく著者が全生活を以つて聖人の述作を領解せるものである。而してその智見の觸るゝ所、時には哲學に論及し、内面的に一般宗教を批判し、竟に何人をも首肯せしめ反省せしめねば止まぬものがある。

併し本書は卒讀直に誰にでも解るようなものではない。恐らく多數の讀者には難解を感じしむるかも知れぬ。けれども反復するに随つてその困難は畢竟吾々が常に餘りに平面的思想に馴れてゐるからである。ここが知られ、會々著者の叫ばんとする所に接するを得ば、手の舞ひ足の踏むごころを知らざるを覺ゆるに至るであらう。眞實を知るごころは稀でもあり困難でもある代りに、それを得し喜びはまた盡きぬごころである。(編者曰)

店書屋子丁

町屋敷珠下市都京
〇九二〇一阪大替振

所行發

信行禪師舍利塔碑銘（拓本）

「三階教に関する隋唐の古碑」参照

神田喜一郎氏藏

疫癘御文御草本(一通)

——日下無倫氏の「御文御草本のこゝろ」参照——

神谷周助氏藏

図版Web非公開

會 則

第一條 本會ハ佛教研究会ト稱ス

第二條 本會ハ佛教並ニコレニ關聯スル諸般ノ研究ヲナスヲ目的トス

第三條 本會ハ大谷大學教職員學生及本會ノ主旨ニ賛同スルモノヲ以テ組織ス

第四條 本會ノ事業左ノ如シ

- 一、隔月一回例会ヲ開ク
- 二、隨時講演會ヲ開ク
- 三、年四回「佛教研究」ヲ刊行ス
- 四、隨時出版ヲナス

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一、會長 一名
- 一、理事 一名
- 一、評議員 若干名
- 一、委員 若干名
- 一、書記 若干名

第六條 本會々員ハ「佛教研究」ノ配布ヲ受ケ例會及講演會ニ出席スルコトヲ得

第七條 本會々員ハ年額金參圓ヲ納ムルモノトス

佛教研究

年四回七十月發行

會費年額金參圓

一部賣代金ハ隨宜申シ受ク

廣告料

一頁 金拾圓、半頁 金五圓

佛教研究第三卷第三號

大正十一年七月五日印刷

大正十一年七月卅日發行

不	許	複	製
禁	轉	載	載

編輯兼 佛 教 研 究 會

發行者 藤 岡 了 淳

右代表者 京都市西洞院通七條南入

印刷者 村 上 勘 兵 衛

印刷所 京都市西洞院通七條南入 内外出版株式會社印刷部

發 行 所

京都市室町頭大谷大學内 振替大阪四四九九七番

佛 教 研 究 會